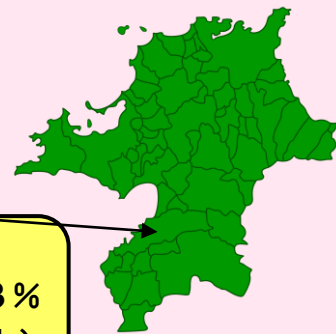


社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34 総合福祉センター
TEL0942-34-3035 / FAX0942-34-3090



久留米市のデータ【平成24年1月1日現在】

人口 302,864人 世帯数 122,409世帯 高齢化率 21.3%
自治会等数 約660 民生児童委員数 550人（内、児童委員63人）

「こころ」あふれる 支え合いのまち くるめ

●指定事業実施の背景

青峰校区は、久留米市が昭和46年、郊外の丘陵地に2,000戸の住宅団地を造成、当時としては画期的な上下水道、スーパー、学校、銀行などを完備した子育て世代理想のニュータウンとして誕生し、昭和57年には人口7,200人に達した。その後、子育てが終わるとともに人口の減少及び少子・高齢化が始まり、近年は、在宅生活に支障きたす超高齢者が急増し、通院、買物、ゴミ区分・ゴミ出し、生活環境の改善等への対応が大きな問題となっていた。

●2年間の軌跡 活動の概要

平成22年、生活支援事業について青峰校区から相談を受け、「高齢化が進んだ地域における小地域活動の推進事業」のモデル事業として県社協に申請、指定に基づき青峰校区社協の生活支援事業検討会に市社協もコーディネーターとして出席し、先進地情報を提供するとともに生活支援事業の組織づくり、ボランティア、事業推進の問題点等について支援した。また、5月下旬、県社協の担当者と校区を訪問し事業の考え方、準備について意見交換を行った。同校区では11月「生活支援事業実施要綱」を作成するとともに協力会員の募集説明会及び研修会、予告広報により事業への参加及び住民への周知・徹底を図った。平成23年4月、事業開始、パンフレットの全戸配布、実績広報により引き続き生活支援事業の理解、周知を図るとともに協力会員、民生委員、地域包括支援センターとの支援調整、相互協力等積極的な事業展開により、平成24年1月末現在の利用件数が56件となり、所期の目的を達成しつつある。

●事業効果

- ①高齢者の自立、生活意欲の向上
- ②民生委員、包括支援センター、校区内の福祉施設との協働
- ③ボランティア意識の醸成
- ④地域住民の福祉に対する期待、信頼

担当者の声

協力会員、民生児童委員、地域包括支援センター、まちづくり振興会のご協力により概ね当初の目標を達成できたと思っています。「前から気になって仕方なかったの」、「一人では出来ないし困っていたの」、「これで安心したわ」、「ありがとう」、多くの皆さんから聞く言葉です。なにげない言葉だけど、聞くと「やってよかった」と思います。

青峰校区社会福祉協議会会長 内野 壽雄 氏

会員自らがアンケート調査やふれあい訪問活動を通して課題発見し「何とかしなければ！」という校区社協の厚い思いが活動へと繋がりました。活動を通して、いかに地域住民の理解と協力体制が必要か、また広報活動の重要性を痛感しているところです。

更に、新たな課題も見えてきました。活動状況と住民の声や支援者の声に正面から向き合いながら協働で取り組みたいと思います。

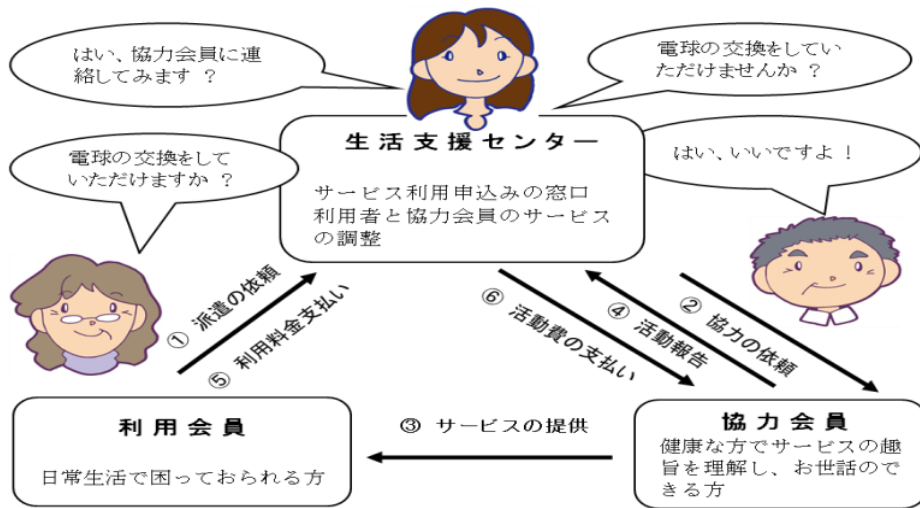
久留米市社会福祉協議会 大久保 芳子 氏

活動のあしあと

「現在、青峰の人口は 3,800 人（最盛期の 52%）、高齢化率 28%、10 年後には、いわゆる「限界集落」との予測もあり、青峰校区で安心して暮らしていけるのか?」「今、住民参加の新たな支えあいのシステムを作らなければ、10 年後の我々の生活はない」そんな不安と危機感をきっかけとして生活支援事業を始めた。

生活支援事業は「障害者、高齢者の皆さんの自立を支援し、安心した生活を送れるように」と 1 年間をかけて、民生児童委員、久留米市社協、地域包括支援センターと検討、準備を重ね、平成 23 年 4 月から開始した。

生活支援事業のシステム



協力会員募集説明会の様子

利用料金

利用時間	利用料金
30 以内	100 円
30 分～60 分以内	200 円
60 分～90 分以内	300 円
90 分～120 分以内	400 円

生活支援事業は、有償サービスです。

支援した協力会員には、活動費が支払れます。

利用実績 (H23 年 4 月～H24 年 1 月)

利用件数	56 件
利用者数	17 人
高齢者	15 人
障害者	2 人
利用平均年齢	79.3 歳
支援者数	8 人
支援者延数	62 人
総支援時間数	84 時間
利用収入額	28,660 円
活動費支払額	57,040 円

利用状況

病院送迎、介添え	22
草刈、枝切り	11
買物	8
ゴミ処理	5
薬の受取	4
洗濯機、器具等の取付	4
地デジ相談、取付	3
家財道具の処分	2
換気扇等の清掃	1
事務手続き代行	1
スズメバチの巣駆除	1
話し相手	1

今後の取り組みと目標

高齢者や障害者の皆さんにもっと気軽に利用していただける環境をつくとともに、認知症高齢者への支援、後継者の育成、財源確保等の問題に取り組み、生活支援事業をさらに地域に根ざした活動に発展させ、「いつまでも安心して住み続けられるまち」の基盤をつくりたいと考えています。

【青峰校区社会福祉協議会】

2 年間、試行錯誤しながらの「生活支援事業」ですが、今後は、会員の学習・研鑽を重ね、資質の向上と信頼を得る活動としなければなりません。また、活動を継続していく上での新たな課題が出てきているのも否めません。この活動が、起爆剤となり、久留米市内におけるモデル校区として、他の校区へ波及していけば・・・と考えています。

【久留米市社会福祉協議会】